

事業計画書

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)

1. 自然普及事業

自然環境の保全とその適正な利用にかかる調査研究、人材育成、普及啓発、顕彰、森林利活用の推進などの事業を行う。

(1) 調査研究事業

阿寒川水系の水と森林に関する調査を引き続き実施する。財団が管理する森林内を流れる阿寒川水系上流域における3河川（キネタンベツ川、チクショベツ川については平成16年度より継続、チュウルイ川については、平成27年度より継続）で降雨量、流量、土砂濃度の調査を行う。

事業費 1,180,000円（前年度予算 1,220,000円）

(2) 人材育成事業

1) 一歩園自然セミナー開催事業

阿寒をはじめとする北海道内の野生動植物や自然現象、自然と文化の関わりなどをテーマとして、財団管理森林内をはじめ釧路市などにおいて自然セミナーを開催し、広く自然に対する意識を深める一助とする。

事業費 551,000円（前年度予算 551,000円）

2) 前田奨学金助成事業

高等学校以上の就学能力がありながら、経済的理由により進学が困難な者に対し、広く高等教育を通して自然環境の保全などに関する知識の習得を促進するため、前年度に引き続き、釧路市前田奨学金に対して助成を行う。

事業費 1,000,000円（前年度予算 1,000,000円）

(3) 普及啓発事業

1) 観察会開催事業

阿寒湖及び当財団管理森林周辺において釧路市児童などを対象とした実体験型自然観察会（ネイチャーウォッチング、自然観察支援事業等）を実施し、自然環境の保全に深い理解と関心を持ち行動ができる人材の育成に寄与する。

事業費

566,000円（前年度予算 598,000円）

2) 自然環境保全活動助成事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する活動、調査研究及びその普及啓発用報告書・成果品の刊行に対し助成を行うとともに、平成29年度の助成対象者により実施された事業についての報告会を（公財）秋山記念生命科学振興財団と合同で実施する。

事業費

6,228,000円（前年度予算 6,108,000円）

3) 森林利活用推進事業

財団創立30周年を契機に取り組みを開始した当財団管理森林をフィールドとする「森の学校」事業において、「教育の森」では、アウトドア環境教育について、北海道教育大学釧路校と連携・協働し、同教育大学生並びに道東圏の教育関係者（理科系教員等）を対象とした研修を実施した。また、「レクリエーション・健康の森」では平成27年度より実施した「一步園森の案内人（ガイド）」養成研修が終了し、新たに7名の「一步園森の案内人」の認定を行った。

「研究の森」では東京農業大学生物産業学部と平成29年6月に締結した連携協定に基づき財団管理森林内において天然林やエゾシカをテーマにした「卒業研究（4年次4名（卒業論文4件）、3年次1名）」、「天然林における実習（3年次18名）」、「生物産業体験実習（1年次36名、2日間実施）」に対する支援（フィールド案内、講師）を実施した。

平成30年度については引き続き「教育の森」に重点を置きながら、「レクリエーション・健康の森」では「一步園森の案内人」に対し、より専門的な知識・技術を習得できるよう研修・勉強会等を行っていく。また、「研究の森」においては、前年度に引き続き、管理森林を活用した東京農薬大学生物産業学部の研究・実習等を支援するなど、「森の学校」事業として次の内容を計画する。

「教育の森」

- ・指導者養成

北海道教育大学釧路校との連携（次世代の教育者に対する教科教材に資するための自然観察、体験の提供）

地元阿寒湖温泉地域の教育機関との連携（教育現場の現状・課題・要望の把握等）

「レクリエーション・健康の森」

- ・「一步園森の案内人」研修・勉強会等の実施

「研究の森」

- ・東京農薬大学生物産業学部 卒業研究支援（4年次、3年次）
- ・東京農薬大学生物産業学部 天然林における実習支援（3年次）
- ・東京農薬大学生物産業学部 生物産業体験実習支援（1年次）

事業費

1,419,000円（前年度予算 1,601,000円）

（4）顕彰事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する分野で活躍している団体、個人の優れた業績をたたえて前田一步園賞

(200,000円/件×2件)を贈呈する。また、未来の自然環境を担う子供たち(小中学生)の自然環境の保全活動の取組みの励みとするため、一歩園ジュニア自然環境賞(100,000円/件×2件)及び奨励賞(30,000円×5件)を贈呈する。

事業費 2,338,000円(前年度予算 2,338,000円)

(5) 地域保全事業

1) 山火事予消防活動助成事業

阿寒湖畔地区の森林を火災から守るため、森林愛護思想の普及啓発と山火事予消防活動への支援、装備の充実に必要な用具などに対して助成を行う。

事業費 300,000円(前年度予算 300,000円)

2) エコミュージアムセンター活動助成事業

阿寒湖畔地区におけるエコミュージアムセンターの活動に対して助成を行い、地域環境の保全に資する。

事業費 800,000円(前年度予算 800,000円)

(6) 前田記念館管理事業

前田記念館および庭園の整備と保守管理を行う。

事業費 900,000円(前年度予算 900,000円)

2. 森林保全事業

基本財産である山林は、全域が国立公園特別地域、水源かん養等保安林及び鳥獣保護区に指定されており、公益的機能の維持・向上が強く求められている。このため、森林を適正に保全し、風致景観や野生鳥獣生息環境などの、森林のもつ多面的な機能を維持・向上するため、平成30年度においても引き続き保全管理・人工林保育・天然生林改良の各事業を行う。

(1) 保全管理事業

1) 巡視事業

山火事予防、入林者の危険防止、立木の盗伐防止のため林道入口に監視人を配置するとともに、阿寒湖畔沿いにある道有地の自然環境の保全等について北海道と結んでいる「公有財産管理委託業務契約」に基づき、当該土地及び立木の管理に関する業務を行う。

事業費

2,000,000円（前年度予算 1,940,000円）

2) エゾシカ食害対策事業

北海道の発表によると平成28年度のエゾシカによる道内農林業被害額は39億1,700万円（前年度比3億3,800万円減）とピークであった平成23年度における64億円より年々減少している。また、道内のエゾシカ推定生息数も平成22年度の66万頭をピークに年々減少し、平成28年度は45万頭（前年度比4万頭の減）と推定される（北海道公表資料より）。

全道的にみると、被害額・推定生息数ともに低下しているが、最新の管理計画である「北海道エゾシカ管理計画（第5期）（平成29年3月策定）」では、管理目標の地域別目標（東部地域（オホーツク、十勝、釧路、根室管内））において次のように位置付けられており、依然対策が必要な状況にある。

「第4期計画では、平成5年度末の推定生息数を基準（個体数指数100）として、平成28年度までに個体数指数

50としたが、平成27年度の個体数指数は92とまだ高い水準にあることから、目標達成を実現することは難しいものと考えられる。このため、捕獲対策の推進に努め、個体数指数50以下をめざす。」

このような中であって、財団管理森林内においてはこれまで継続してきた給餌や囲いワナによる捕獲といった対策事業により樹皮喰等の被害を抑制することに成功しているが、楽観視はできない状況である。

このため、平成30年度も前年度同様「ビートパルプの給餌」、「囲いワナによる捕獲」、「樹皮防護ネット巻き」といった対策事業を継続して実施することにより森林被害防止に努める。

なお、平成29年度の囲いワナによる捕獲事業において、業務の効率化および夜間ワナ内に侵入するエゾシカへの対応のためワナを改良（頭数を設定し自動で捕獲用扉を閉める装置の導入）し夜間の捕獲に成功している。

対策事業実施にあたっては、近年の給餌実績・捕獲実績を勘案した事業量とする（給餌量60トン、囲いワナ数2基（いずれも前年と同規模））。これらの対策とあわせて、エゾシカの生息状況や給餌事業の効果などについて、大学や研究機関と連携して調査を行う。

事業費

9,170,000円（前年度予算 12,980,000円）

3）林道事業

春の雪解け後の全山林道・作業道の支障木除去、ならびに既設の林道・作業道の維持管理、およびゲート等の関連設備の補修・改良を行う。なお、平成30年度において既存林道（雄観線・パンケ林道）の破損が激しい箇所の修繕もあわせて行う。

事業費

4,950,000円（前年度予算 1,500,000円）

4）調査事業

人工林保育・天然生林改良の計画立案に必要な林況を把握するための調査を行う。また調査に必要な資材等を購入す

る。

事業費

1, 530, 000円（前年度予算 1, 760, 000円）

5) 危険木等処理

危険木・支障木等の処理（伐採・移動等）を行う。

事業費

500, 000円（前年度予算 1, 000, 000円）

（2）人工林保育事業

1) 植樹祭事業

植樹祭に係る苗木の購入、地拵え、下刈を行う。また、平成31年度以降の植樹祭実施地を確保するための地拵え

（1. 5ha）を行う。

事業費

750, 000円（前年度予算 290, 000円）

2) 除間伐・枝打事業

植栽木の健全な成長を促進させるため、人工林64. 4haの間伐、および伐採木（520m³）の搬出を行う。

事業費

18, 830, 000円（前年度予算 12, 710, 000円）

3) 人工造林事業

平成30年度は計画無し。

事業費

0円（前年度予算 1, 760, 000円）

4) 人工造林下刈事業

植栽木の健全な成長を促進させるため、平成29年度の植栽地4. 4haの下刈作業を行う。

事業費

150,000円（前年度予算 0円）

（３）天然生林改良事業

１）誘導造林事業

天然生林において林分構成の充実を図るため、平成28年度台風被害跡地15.6haの天然生林の樹下にエゾマツ・トドマツの苗木（10,000本）を植栽する。また、平成27年度間伐実施地2.6haの天然生林の樹下にトドマツの苗木（1,300本）を植栽する。

事業費

3,730,000円（前年度予算 0円）

２）誘導造林下刈事業

植栽木の健全な成長を促進させるため、平成25年～28年の植栽地53.3haの下刈作業を行う。

事業費

1,810,000円（前年度予算 2,390,000円）

３）天然生林間伐事業

天然生林において林分構成の充実を図るため、110.3haの間伐、平成28年度年度台風被害地5.3haの更新伐、および伐採木（780m³）の搬出を行う。

事業費

28,050,000円（前年度予算 43,680,000円）

（４）業務費

森林保全事業に係る「旅費交通費」、「諸謝金」、「雑費」。

事業費

1,350,000円（前年度予算 2,900,000円）

3. 土地貸付事業

基本財産である土地（山林、宅地等）は、全域が国立公園特別地域、保安林、鳥獣保護区に重複して、あるいは単独で指定されている。さらに阿寒湖畔の土地は、国立公園集団施設地区に指定されているなど、公益性が強く求められている。

このため、土地の管理保全及び適正な利用を図り地域の振興に資するため、前年度に引き続き土地の貸付を行う。

（1）土地保守・管理事業

財団所有地における土地の保守と管理を目的に、主に空地等の緑化（植栽等）やベンチ及び看板などの設置を行う。

また、市街地の財団管理地内において立木の成長や枯損木等により近隣家屋への支障や人的被害などの危険性が高いものについて、調査・整理伐採を実施する。

事業費

1, 150, 000円（前年度予算 1, 300, 000円）

（2）土地貸付

前年度に引き続き、表3－1のとおり土地の貸付を行う。

（表3－1）土地貸付等状況一覧

契約区分	平成29年3月現在		平成30年1月現在		備 考
	契約件数	貸付等面積	契約件数	貸付等面積	
有償契約	204件	519,375 m ²	204件	519,555 m ²	電力会社送電線敷地41haを含む。
無償契約	19件	346,115 m ²	19件	346,115 m ²	北海道、釧路市、森林管理署、アイヌ協会外
計	223件	865,490 m ²	223件	865,670 m ²	

4. 温泉事業

当財団が所有する源泉は、阿寒湖温泉のほぼ全域のホテル・旅館等に温泉を供給しており、その公益性が強く求められている。このため、源泉及び温泉供給設備の拡充と安定供給体制をより一層強化するため、施設整備の計画的な推進を行う。

(1) 揚湯ポンプの拡充事業

チップ川源泉の温泉ポンプ（7.5kw）を1台及び、揚湯管（9本）を購入し、温泉の安定供給の確保に努める。

事業費 2,400,000円（前年度予算 2,000,000円）

(2) 源泉井戸の修繕事業

平成17年度に掘削したチップ川源泉において、昨年1月から8月にかけて温度低下が顕著となり、契約先への安定供給が困難となったことから、現在は供給を休止せざるを得なくなっている。

このことから、急遽実施した坑内カメラ検層によって、深度105m付近で穿孔が確認され、冷泉が流入する状況も確認した。穴の大きさや温度は未確認であるが、温度低下の原因がこの穿孔によるところが有力であるため、独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所並びに上山試錐工業㈱からの情報やアドバイスを受け、水井戸やガス管の穿孔を特殊工法により修繕する工事に実績のある千葉県の関東建設㈱と連携することによって穿孔の修復工事を実施する。

事業費 3,500,000円（前年度予算 0円）

(3) チップ川源泉における動力許可申請事業

数年前から、源泉（井戸）能力の低下が見られるチップ川源泉において、安定供給に必要な揚湯量と温度を確保するため、水中ポンプの深度を、現在、許可を受けている位置からさらに深い位置に設置できるよう北海道に動力許可申請を行う。

このことから、許可申請時の添付資料として必要なチップ川源泉の揚湯能力調査並びに付近（５００m以内）に位置する源泉の動水位影響調査及び申請にかかる一切の手続きを委託する。

事業費 １，２５０，０００円（前年度予算 １，５８０，０００円）

（４）源泉及び温泉供給設備の管理

平成３０年１月現在の当財団所有源泉数は前年度から増減なく１５本（内、稼働中１２本、非常時用予備１本、観測井２本）である。前年度に引き続き、平成３０年度においてもこれら源泉及び温泉供給設備の管理保全に努める。

（５）温泉供給

前年度に引き続き、表４－１のとおり温泉供給を行う。

（表４－１）温泉供給状況一覧

供給区分	平成 29 年 3 月現在		平成 30 年 1 月現在		備 考
	契約件数	供給本数	契約件数	供給本数	
有償供給	66 件	298 本	66 件	299 本	
無償供給	3 件	4 本	3 件	4 本	北海道（阿寒湖畔診療所）等
自家用		3 本		3 本	暖房等財団諸施設
計	69 件	305 本	69 件	306 本	

５． その他

（１）ホームページ管理委託事業

ホームページの管理及び、更新等を専門業者に委託し行う。

事業費

120,000円（前年度予算 220,000円）

事業費については、実施事業等会計、その他会計、法人会計で配分し支出する。

（２）財団諸業務に係るアーカイブ事業

財団諸業務に関する資料画像（デジタルデータ）は、各部担当者にて管理（保存）されているが、財団内部での共有利用並びに恒久的かつ安定的な資料画像（デジタルデータ）の管理（保存）に資するシステムの構築を図る。

事業費

470,000円（前年度予算 0円）

事業費については、実施事業等会計、その他会計、法人会計で配分し支出する。